

Title	分離前綴り an- が示す「開始」の意味について
Sub Title	Die inchoative Bedeutung bei der Verbvorsilbe "an-"
Author	吉村, 創(Yoshimura, So)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2002
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.82, (2002. 6) ,p.299(70)- 316(53)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00820001-0316

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

分離前綴り an-が示す 「開始」の意味について

吉村 創

現代ドイツ語における分離前綴り an-⁽¹⁾は、一つの統一した意味ではその用法の全体を説明できない、多義的な前綴りである。前綴り an-の示す多様な意味を分類する際、通例次の三つの基本的な意味に基づいて分類される⁽²⁾。

- (1) In dem Auto saß ein Herr, der einen spinnwebfarbenen Anzug anhatte, einen grauen steifen Hut auf dem Kopf trug und eine kleine graue Zigarre rauchte. (Ende S. 90 l. 1-4)

「車の中に一人の男が座っていたが、彼はクモの巣の色をしたスーツを着、灰色の堅い帽子を頭にかぶり、小さな灰色の葉巻を吸っていた。」

- (2) Wenn Sophie merkte, daß ich sie ansah, wandte sie sich mir zu und lächelte mich an. (Schlink S. 65 l. 28-30)

「Sophieは僕が見ているのに気付くと、僕の方を向いて、僕にはほほ笑みかけた。」

- (3) Grumpeter fung ein Gespräch mit Meeser an, (Böll S. 996 l. 5-6)

「GrumpeterはMeeserと会話を始めた。」

文例(1)において、基礎動詞 haben は「持っている」という所有の意味を表すが、前綴り an-が付加されて an-haben という複合動詞になると、

単なる所有ではなく、身体に「接触」した状態での所有、すなわち着衣状態を表す。また、文例(2)における an-lächeln の場合、基礎動詞 lächeln は「ほほ笑む」という行為を特に方向性を示さずに表す自動詞であるが、前綴り an-の付加によって行為の受け手を表す語を対格補足語として要求する他動詞となり、行為者の行為の受け手への「(心理的) 接近」という意味が生じる。この「接触」と「接近」という二つの意味は前綴り an-の示す基本的な空間的意味であり、同語源である前置詞 an の示す基本的な意味である「表面との接触」の意味にも合致する。

文例(3)の an-fangen も、基礎動詞 fangen の表す「つかむ」という行為の方向性が前綴り an-によって際立たせられ、対格補足語 Gespräch「会話」が表す対象へ「つかみかかる」という空間的な「接近」の意味を示すと解釈することは、比喩としては可能である。しかし、an-fangen が示す意味は空間的なものに限られず、対格補足語の表す内容を「開始」という時間的な意味にまで拡張されている。このような「開始」の意味は、「接触」「接近」の意味と並んで前綴り an-の示す三つ目の基本的な意味であると考えられる。しかし、前綴り an-の示す「開始」の意味と一口に言ってもその様相はさまざまであり、文例(3)の an-fangen のように空間的な意味を基礎とするのではないものも多く存在する。本論では一般に「開始」の意味を示す an 動詞⁽³⁾として分類されるそれぞれの動詞が、実際どのような性質を有するのか、分析する。

ところで、an 動詞のみならず一般に「開始」の意味について論じる際、いわゆる Aktionsart の一分類である Inchoativ という概念について言及されることが多い。Aktionsart は本来スラヴ諸語の動詞変化形の形態論・意味論的分析に適用された概念であり⁽⁴⁾、現代ドイツ語の分析にこの概念を応用する際の統一した定義はいまだ確定していないのだが、およそ次のように考えられる。すなわち Aktionsart とは「動詞によって表現される出来事を特定の仕方で特徴付ける、動詞の意味論的なカテゴリー」⁽⁵⁾ のことであり、ある動詞が出来事の「開始」や「完結」といった時間的段階を表すのか、そのような時間的限定のない「継続」的な出来事を

表現するののかといった時間的な分類や、またある動詞が出来事を「反復」する現象として表現するののか、その出来事の遂行される程度が「強度」あるいは「軽度」であるという観点から表現するののかといった内容的な分類が提唱されている。Inchoativとは「ある出来事の開始の段階、ある現象の始まり、ある状態の発生」⁽⁶⁾という時間的な分類の一つであり、この点で「開始」を表す動詞表現を研究する際に考慮に入れるべき概念である⁽⁷⁾。

しかし、「開始」の意味を示す an 動詞を対象とした諸研究において、この Inchoativ の概念に対してはさまざまな位置付けがなされている。例えば Okamoto (1998) は「開始」の意味を示す an 動詞を一括して Inchoativ の標題の下にまとめている⁽⁸⁾が、Storch (1978) はそれらの an 動詞を同じく Inchoativ の概念で説明するものの、その概念が一様なものではないと考え、いくつかの下位区分を設定する⁽⁹⁾。また Weisgerber (1958) は an 動詞の示す「開始」の意味を Inchoativ の概念とは異なるものと考え、「in Gang」という標題の下にこれらの an 動詞を分類する⁽¹⁰⁾。このように、an 動詞の示す「開始」の意味と Inchoativ としての「開始」の概念との関係については、まだ統一した見解が示されていないのが現状である。果たして両者の関係はどのように考えられるべきなのか。an 動詞の示す「開始」の意味を説明するのに、Inchoativ の概念は適当であるのかどうか。この疑問に答えるために、本論では現代ドイツ語によって書かれたテキストから集めた an 動詞の文例⁽¹¹⁾と、それぞれの an 動詞に対する辞書記述⁽¹²⁾をもとに、各々の an 動詞を「開始」される内容がどの言語要素によって表現されるかにより分類し、その諸特徴を考察する。

1. 「開始」される行為・状態を基礎動詞が表す an 動詞

この分類に属する an 動詞は、基礎動詞が表す行為・状態の「開始」の段階に叙述の焦点を当てる。次の文例を検討する。

(4) Die Bahn hielt....Als ich ausstieg, war mir, als sähen sie mir lachend

zu. Aber ich war nicht sicher. Dann fuhr die Bahn an, (Schlink S. 46
l. 21-24)

「列車は停止した。……私が降りたとき、私には彼らが私の方を笑いなが
ら見るような気がした。しかし私は確信がもてなかった。そして列車
は動き出した。」

(5) Der Vorführer hatte den Film bereits anlaufen lassen, als wir an der
Kasse standen. (Hein S. 138 l. 9-10)

「私たちがチケット売りに並んでいるのに、映写技師はすでに映画を
上映し始めていた。」

文例(4)では、基礎動詞 *fahren* が「(乗り物が) 動く」という行為をその
「開始」や「完結」といった時間的段階を考慮せずに表現するのに対し、
an-fahren はその行為の「開始」の段階に叙述の焦点を当てて「(乗り物
が) 動き始める」という意味を表現する⁽¹³⁾。また文例(5)における *an-
laufen* は、基礎動詞 *laufen* の表す「(映画が) 上映中である」という状態
の「開始」の段階に注目して「(映画が) 上映を始める」という意味を表現
する⁽¹⁴⁾。これらの *an* 動詞は、前綴り *an-* の付加により基礎動詞の表す
「出来事の開始の段階」に叙述の焦点が当たるという点で、Inchoativ の
概念に適合する。このように、Inchoativ の概念で説明される *an* 動詞に
は他に、*an-drucken* 「印刷を始める」⁽¹⁵⁾ *an-galoppieren* 「ギャロップで走
り始める」*an-rollen* 「転がり始める」*an-saugen* 「吸い始める」*an-
schwimmeln* 「かびが生え始める」*an-singen* 「(一緒に歌を) 歌い始める」
an-traben 「だく足で走り始める」*an-ziehen* 「(馬車・列車などが) 動き
始める」等が考えられる⁽¹⁶⁾。

次の文例における *an* 動詞も、前綴り *an-* が基礎動詞の表す行為・状態
の「開始」の段階に叙述の焦点を当てて表現する例であると解釈できる
が、前述の *an* 動詞とはいくらか異なる様相を示す。

(6) So wird auch im Katalog des Versands eingeräumt, dass die Blechkannen aus Südasiens innen etwas angerostet sind (Sp. 45 S. 167 ur. 7-10)

「それで通信販売カタログにも次のことを認める記載がある、南アジア製のブリキポットは中がいくらか錆びかけていると。」

(7) Ein spitzer Ast spießte dann die angekohlte und krustig geplatzte Knolle, (Grass S. 11 l. 32-33)

「とがった枝が、少し焦がされた、皮つきの裂けたじゃがいもに突き刺された。」

文例(6)における an-rosten は、基礎動詞 rosten の表す「錆び(てい)る」という現象の「開始」の段階に叙述の焦点を当て、「錆び始める」という意味を表現する。その限りにおいてはこの an 動詞も Inchoativ の概念で説明され得る。しかし辞書の an-rosten の項目には、例えば Duden では „zu rosten beginnen“ という意味説明と並んで „ein wenig rostig werden“ という記述がなされている。rosten 「錆び(てい)る」という現象は、「錆び始める」という「開始」の段階から「すっかり錆びる」という「完結」の段階までを進行していくものと想定されるが、この「開始」の段階とは、現象がまだそれ程進行していない段階、すなわち現象が「部分」的にしか進行していない段階であるとも考えられる⁽¹⁷⁾。よって、「開始」の意味を示す an 動詞から、基礎動詞の表す行為・状態が「部分的にしか進行していない」という含意が生じ、an-rosten が「少し錆びる」という意味を表すこととなる。また、前置詞 an の示す「表面との接触」という意味も、行為・状態の表面的な進行という意味で、an 動詞の示す「部分」の意味に影響を及ぼしてもいよう。

an-rosten のように、基礎動詞の表す行為・状態の「開始」の段階を表現する意味に加えて、その行為・状態がまだ「部分」的にしか進行していないという意味をも表現する an 動詞で、辞書記述においても「開始」

「部分」両方の意味記述が記載されている例としては他に、an-blasen「吹奏し始める；最初の音を吹奏する」an-bremsen「ブレーキをかけ始める；ちょっとブレーキを踏む」an-brüten「(孵化するために卵を)抱き始める；少し抱く」an-dauen「消化し始める；部分的に消化する」an-diskutieren「論じ始める；少し論じる」an-faulen「腐り始める；腐りかける」⁽¹⁸⁾an-fressen「(かじって)崩壊させ始める；一部をかじる」an-glühen「赤熱し始める；少し赤熱させる」an-hauen「(木を)切り始める；少し切る」an-knabbern「かじり始める；ちょっとかじる」an-lesen「(本を)読み始める；最初の数ページを読む」an-nagen「かじり始める；ちょっとかじる」an-rauchen「(たばこを)吸い始める；一吸いする」an-säuern「酸っぱくなり始める；少し酸っぱくする」an-tauen「(雪などの)表面が解け始める；短時間解凍する」an-trinken「飲み始める；少し飲む」an-trocknen「乾き始める；少し乾く」等が存在する⁽¹⁹⁾。

文例(7)におけるan-kohlenも、基礎動詞kohlenの表す「炭化させる」という行為の「開始」の段階に前綴りanが焦点を当てると同時に、その行為の「部分」的な進行をも表現するが、ここではその行為が継続されることは前提とされていない。むしろ、その行為を「開始」の段階で中断する、すなわち「軽度に炭化させる」という意味を表している。このようなan動詞には他に、an-backen「(ケーキなどを)軽く焼く」an-blättern「ざっと流し読みする」an-braten「(肉などを)軽く焼く」an-bräunen「薄茶色になる・する」an-färben「少し色をつける」an-feuchten「軽く湿らせる」an-frieren「凍りかける」an-heben「少し持ち上げる」an-kippen「ちょっと傾ける」an-kochen「短時間煮る・ゆでる」an-räuchern「少しいぶす」an-rauen「表面を少しざらざらにする」an-rösten「少し焦がす」an-sägen「切り込みをつける」an-schleifen「少し研ぐ」an-schmoren「軽く煮る」an-schmutzen「少し汚れをつける」an-schubsen「軽く押す」an-schwitzen「油で軽く炒める」an-sengen「少し焦がす」an-spielen「いくつか音を演奏する」an-wärmen「少し温める」等が考えられる。これらのan動詞は、辞書記述においても「部分」

の意味しか記載されておらず、Inchoativ の概念による「開始」の意味を基礎としながらも、同じ Aktionsart の分類によると、出来事の遂行される程度が「軽度」であることを表す Deminutiv の概念をも想起させる。

さらに次の文例に現れる an 動詞は、むしろ Deminutiv の概念で説明する方が適当であると思われる。

(8) Er stieß mich mit der Schuhspitze an: (Hein S. 77 l. 25)

「彼は私を靴の先で突いた。」

(9) Wie der Arzt, um zu prüfen, ob es abgestorben ist, ein Glied ansticht, so stech ich mein Gedächtnis an. (Wolf S. 230 l. 21-23)

「医者が、壊死しているかを確かめるために四肢をちょっと刺してみるように、私は自分の記憶を一刺しする。」

文例(8)の an-stoßen は、基礎動詞 stoßen が表す「突く」という行為を「部分」的な程度、すなわち「軽度」に遂行するという意味を表す an 動詞であり、人を小突く、ビリヤードの球をキューで突く、乾杯のためグラスを合わせる、のような「軽く突く」という意味で用いられる。この an 動詞が行為の「開始」の段階を表現する、と解釈するのは無理があるように思われる。なぜなら基礎動詞 stoßen は瞬間的な行為を表し、その行為に「開始」や「完結」といった時間的段階を読み込むことは困難だからである。文例(9)における an-stechen も同様に、基礎動詞 stechen が「刺す」という瞬間的な、時間的段階を想定し難い行為を表現し、前綴り an-の付加によってその行為を「軽度」に行うという意味が生じている。これらの an 動詞はもはや「開始」の意味を基礎にするとは考え難く、Deminutiv の概念で説明する方が適当である。このような an 動詞には他に、an-brechen 「ひび入らせる」 an-knacksen 「(ぼきっと音をたてて) 少し折る」 an-lecken 「(切手などを湿らすために) ちょっとなめる」 an-pieken 「軽くちくっと刺す」⁽²⁰⁾ an-ritzen 「小さなひっかき傷を付ける」 an-streifen

「軽く触れる」 an-tippen 「軽く触れる」 an-tupfen 「軽くたたく」等が挙げられる⁽²¹⁾。

以上、「開始」される行為・状態が基礎動詞によって表される an 動詞について考察したが、これらの an 動詞が、行為・状態の「開始」の段階を表す Inchoativ の概念で説明できるものから、その行為・状態の「部分」的な進行を表すもの、さらに「部分」的な程度を表す Deminutiv の概念で説明されるものへとつながることを確認した。しかもこれらの an 動詞の諸用法のつながりは連続的なものであると考えられる。例えば、文例(6)の an-rosten と文例(7)の an-kohlen に代表される諸例の間には「部分」の意味を示す度合いに差があると論じ、主に辞書記述に頼って分類を試みたが、それぞれの an 動詞が含む「部分」の意味の程度は、実際は文脈によって様々であり、辞書記述の恣意性をも感じさせる。また、文例(8)の an-stoßen 等、Deminutiv の概念で説明すべき an 動詞に「開始」の意味が全く読み取れないかどうか、詳しい考察を要する。よって、諸用法の間に明瞭な境界線を引くことは困難であり、an 動詞の示す「開始」の意味は、「部分」の意味と連続的につながっていると考えるのが自然である⁽²²⁾。

2. 「開始」される対象を補足語 (Ergänzung) が表す an 動詞

この分類に属する an 動詞としては、序節の文例(3)における an-fangen の他に、次の文例が挙げられる。

(10) die neue Zeit brach an, (Böll S. 1034 l. 33)

「新しい時代が始まった。」

(11) Am nächsten Tag trat er seine Arbeit bei Madame Arnulfi an.

(Süskind S. 220 l. 32-S. 221 l. 2)

「次の日彼は Madame Arnulfi のもとで仕事を始めた。」

(12) Gerhard Schröder mochte das heikle Thema bislang nicht anpacken.
(Sp. 41 S. 130 r. 16-17)

「Gerhard Schröderはこの扱いにくいテーマに今まで手をつけたくなかった。」

文例(3)の an-fangen がとる対格補足語 Gespräch 「会話」、文例(10)の an-brechen がとる主格補足語 Zeit 「時代」及び文例(11)の an-treten がとる対格補足語 Arbeit 「仕事」は、いずれもその「開始」や「完結」といった時間的な段階を想定できる、いわば時間の幅をもつ内容を表す語である。そして、それぞれの an 動詞はこれらの補足語が表す内容の「開始」の段階に叙述の焦点を当てることにより、補足語の表す内容を「始める」という意味を表現する。このような意味を示す an 動詞のうち、an-brechen は時を表す主格補足語 (Tag 「日」 Nacht 「夜」など) をとり、その「開始」の段階を表現する。また、an-heben は時を表す語の他に、音や声を発する行為を表す語 (Gesang 「歌曲」 Gespräch 「会話」など) を主格もしくは対格補足語としてとり、その「開始」の段階を表現する。an-treten は「仕事」を意味する語 (Arbeit, Amt, Dienst など) 等を対格補足語とし、その「開始」の段階を表現する。また、an-fangen と an-gehen については、その主格及び対格補足語の表す内容は様々である⁽²³⁾。

ただし、文例(12)の an-packen がとる対格補足語 Thema 「テーマ」は、時間的な幅をもつ内容を表さない。しかしこの an 動詞をこの分類に含めるのは、an-packen が補足語の表す内容に「着手する」という意味を表し、その後続く行為の「開始」の段階に叙述の焦点を当てると解釈できるからである。この an 動詞は、文例(3)の an-fangen にも窺えるように、基礎動詞 packen の表す「つかむ」という行為が、対格補足語の表す対象に向けて遂行される「接近」の意味が読み取れる an 動詞である。類例として an-fassen, an-greifen 等もこのような性質を有し、Problem 「問題」や Aufgabe 「課題」といった語を対格補足語にとり、その内容に「着手

する」という意味を表す。これらの an 動詞は「開始」の意味を示す an 動詞と空間的な「接近」の意味を示す an 動詞の中間に位置する動詞と考えられ、両者の連続的なつながりを想定できるかもしれない。しかし、この空間的な意味はあくまで比喩的に解釈する場合に成立するものであり、更なる考察を必要とする。

いずれにせよ、これらの an 動詞は補足語の表す内容の「開始」の段階に叙述の焦点を当てる、または補足語の表す内容に「着手」して、行為を「開始」する段階に焦点を当てるという点で、Inchoativ の概念で説明すべき an 動詞と見なされる。これらの an 動詞は、通時的な観点からはともかく、現代ドイツ語においては前綴り an- と基礎動詞それぞれの意味役割を区別して解釈することが困難であり、an 動詞全体で「開始」の意味を表現すると考えられる。

しかし、補足語の表す内容の「開始」を表現する an 動詞の中にも、前綴り an- と基礎動詞のそれぞれの意味役割を認められるものが存在する。例えば an-pfeifen は、Spiel 「試合」等の語を対格補足語にとり、その「開始」の段階に叙述の焦点を当てて「(試合を) 開始する」という意味を表すが、基礎動詞 pfeifen の表す「笛を吹く」という行為は、試合が「開始」される合図となる手段を表す。すなわち an-pfeifen の意味を詳しく述べると「笛を吹いて (試合を) 開始させる」となる。このように基礎動詞が「開始」に至る手段となる行為を表す an 動詞には他に、an-blasen 「楽器を吹いて開始を告げる」an-läuten 「鐘で開始を知らせる」an-stoßen 「キックオフする」an-werfen 「初球を投げる」等が挙げられ、Jagd 「狩り」や Spiel 「試合」などの語を対格補足語にとり、その内容の「開始」の段階を表現する。また、an-ziehen 「(チェスで) 初手をさす」や、an-geben 「(トランプで) 初めの札を出す」an-spielen 「(試合を) 開始する」等も同様に解釈される⁽²⁴⁾。

次の文例のような「機器の始動」を表す an 動詞も、基礎動詞が「開始」に至る手段を表すものである。

(13)Der Lehrer drehte das Licht an (Jenny S. 87 l. 4)

「教師は明かりをつけた」

(14)Herger knipst eilends den Fernseher an und vernimmt zu seinem Erstaunen, dass die Tore in der Mauer weit offen stehen. (Sp. 45 S. 94 r. 10-12)

「Herger は急いでテレビをつける。すると彼が驚いたことに、(ベルリンの) 壁の門は広く開いているのだ。」

文例(13)における an-drehen は、基礎動詞 drehen の表す「回す」という行為によって、対格補足語 Licht「明かり」という機器を始動させる、すなわち「明かりをつける」という意味を表現する。この an 動詞は対格補足語が表す「機器の始動」を意味し、その際基礎動詞の表す行為は「機器の始動」を引き起こす手段となる。文例(14)における an-knipfen も、基礎動詞 knipfen の表す「スイッチをぱちっと入れる」という行為が引き金となって、対格補足語 Fernseher「テレビ」という「機器の始動」を引き起こす、という意味を表す。他にも、an-drücken「(ボタンを) 押して始動させる」an-kurbeln「ハンドルを回して始動させる」an-reißen「(エンジンを) 牽引装置で始動させる」an-schalten「スイッチを入れて始動させる」an-treten「踏んで始動させる」等の an 動詞が、Licht や Lampe のような「明かり」を意味する語、Fernseher「テレビ」Radio「ラジオ」または Motor「エンジン」のような機器を意味する語を対格補足語としてとり、それらの「機器の始動」を表現する。また、an-treiben は「推進する、駆動する」という意味を表し、対格補足語に Turbine「タービン」や Pumpe「ポンプ」等の語をとるが、これも「機器の始動」を表す an 動詞と見なすことができる。これら「機器の始動」を表す an 動詞は、機器が作動する「開始」の段階に叙述の焦点を当てるという点において、Inchoativ の概念で説明するのがふさわしいと考えられる⁽²⁵⁾。

しかし、同じ「機器の始動」を表す an 動詞の中にも、次の文例に見ら

れるように、基礎動詞の担う意味役割が明瞭でないものも存在する。

(15) Ich frage sie, ob das hier eines von Vitos Unternehmen ist, aber sie zuckt nur gleichgültig mit den Schultern und läßt den Motor an. (Jenny S. 66 l. 29-31)

「私は、これは Vito の事業の一つなのかと彼女に尋ねるが、彼女はただどうでもいいように肩をそびやかし、エンジンをかける。」

(16) Die Tür zum Kellergeschoß stand auf, das Kellerlicht war an, (Schlink S. 24 l. 17-18)

「地階へ続く扉は開いており、地下室の明かりはともっていた。」

文例(15)における an-lassen は、対格補足語 Motor 「エンジン」という「機器の始動」を意味する an 動詞であるが、基礎動詞 lassen はその手段を表さない。同様の例に an-gehen, an-stellen 等が存在するが、これらの an 動詞において基礎動詞の担う意味役割は曖昧であり、前綴り an-の示す「開始」の意味のみが明瞭となる。このように、基礎動詞の意味役割が稀薄になり、前綴り an-に「開始」の意味が集中した結果、文例(16)のように副詞の an が「開始」を表す語として独立して成立することとなる。

また、「機器の始動」を表す an 動詞には、次のような例も存在する。

(17) Hanna hatte den Badeofen angemacht. (Schlink S. 77 l. 9)

「Hanna はふろ沸かし用ボイラーをつけていたのだ。」

文例(17)における an-machen も「機器の始動」を表す an 動詞であるが、対格補足語 Badeofen 「ふろ沸かし用ボイラー」の作動を「開始」させるために、「点火」という行為を行っていることが、他の例と異なるところである。この an 動詞は次の文例のような「点火」を意味する an 動詞とのつながりを示す。

(18) Dann blies er das Feuer an. (Süskind S. 124 l. 16)

「それから彼は送風して火を起こした。」

(19) Franz setzte sich mit dem Rücken gegen die Wand und zündete seine Pfeife an. (Maron S. 235 l. 12-13)

「Franz は背を壁にもたせて座り、パイプに火をつけた。」

文例(18)における an-blasen は Feuer 「火」という対格補足語をとり、「火をつける」という意味を表す。この an 動詞は、基礎動詞 blasen の表す「送風する」という行為を「点火」に至る手段とする。このような an 動詞には他に、an-fachen 「(火を) 吹き起こす」 an-schüren 「(火を) かき起こす」 an-streichen 「(マッチを) すって火をつける」等が存在する。また、文例(19)における an-zünden は Pfeife 「パイプ」という対格補足語をとり、その対象に「点火」するという意味を表す⁽²⁶⁾。これらの an 動詞は対格補足語として「火」または「火をつけられるもの」を表す語をとり、対象が「点火」されることを表現する。よって、これらの an 動詞はもはや「開始」の意味を示すとは解釈できないが、「機器の始動」を表す an 動詞と連続的なつながりをもつと考えられる。それは文例(17)の an-machen や、an-blasen, an-gehen, an-schüren 等, Ofen 「ストーブ」や Heizung 「暖房」等を「点火」することによって、その「機器の始動」を引き起こすという意味を表す an 動詞の存在によって確認される。また、an-gehen や an-machen 等「機器の始動」と「点火」の両方の用法を示す an 動詞の存在からも両者のつながりを推測できる⁽²⁷⁾。これらの an 動詞の存在により、「開始」「点火」両用法の間に明瞭な境界線を引くことは困難と言えるであろう。

したがって、本節で検討した an 動詞も、Inchoativ の概念で説明できる an 動詞から、「点火」というもはや「開始」の意味を示さない an 動詞まで、意味的に連続したつながりを示すことが確認された⁽²⁸⁾。

3. an 動詞の示す「開始」の意味と Inchoativ の概念

前節までの分析で、「開始」の意味を示す an 動詞は、「部分」あるいは「点火」の意味を示す an 動詞と連続的なつながりを示すことが確認された。よって、an 動詞の示す「開始」の意味と Inchoativ の概念との関係を次のように捉えることが適切であると考えられる。すなわち、「開始」の意味を示す an 動詞の中には、Inchoativ の概念で説明できるものが存在する。しかし、「開始」の意味を示す an 動詞が、そのすべての例に共通する意味要素として Inchoativ 的な意味を示すとは言い難い。なぜなら本論で検討した an 動詞の中には「部分」や「点火」といった、「開始」以外の意味をより明瞭に示す例も存在するからである。だが、Inchoativ 的な意味をもつ an 動詞だけを、そうではない an 動詞から区別することも不可能である。なぜなら「開始」の意味を示す an 動詞と「部分」や「点火」の意味を示す an 動詞との間には連続的なつながりが認められ、それぞれの間に恣意的な境界線を引くことができないからである。

そもそも「開始」の意味を示す an 動詞をひとまとめにして、それが Inchoativ の標題のもとに括れるか否か、という二者択一的な選択をする必要があるのだろうか。そうではなく、an 動詞の示す「開始」の意味の中心に、「ある出来事の開始の段階」という Inchoativ の概念を設定し、その周辺に「部分」及び「点火」の意味を示す an 動詞を、それらの意味が現れる程度に応じ段階的かつ連続的に位置付ければ、その方が自然な説明とはならないだろうか。このような見方をすれば、動詞の表す行為・状態に対する理論的な分類法である Aktionsart の観点から設定されたトップダウン的な Inchoativ の概念と、an 動詞という現代ドイツ語における言語要素の一例として、実際の自然言語の一要素が示すボトムアップ的な「開始」の意味とが結び合った、「開始」の意味についてのより深い考察が可能になると思われる。ちなみに、「開始」の意味を示す an 動詞を、他の意味を示す an 動詞との連続的なつながりの中で説明する方法は、Taylor (1995) で提唱された「意味連鎖」(meaning chains) の考え方に

も通じるところがあると考えられ、詳しい検討が必要である⁽²⁹⁾。

本論では、現代ドイツ語における「開始」の意味を示す an 動詞を考察の対象に選び、その諸性質を分析した。しかし、現代ドイツ語において「開始」の意味を示す言語要素は、an 動詞の他にも多数存在し、「開始」の意味を示す言語要素が全体として示す性質を明らかにするには、それらの言語要素の一つ一つを詳しく分析し、調査することが必要である。今後の課題としたい⁽³⁰⁾。

注

- (1) 本論では「分離前綴り」という語を、従来の文法記述における trennbare Vorsilbe の意味で、すなわちある複合動詞が定動詞として用いられる場合、定動詞前置文や正置文において語基 (Grundwort) となる基礎動詞と語規定 (Bestimmungswort) となる前綴りが分離して現れる、その前綴りの意味で用いており、これらの前綴りが実際に「前綴り (Vorsilbe)」としての性質を有するかどうかという問題は留保する。また、本論では繁雑さを避けるため、以降では分離前綴り an- を単に「前綴り an-」とよぶ。
- (2) Weisgerber, Leo: *Verschiebungen in der sprachlichen Einschätzung von Menschen und Sachen*. Köln 1958, S. 125-137; Kühnhold, Ingeburg: *Deutsche Wortbildung. Typen und Tendenzen in der Gegenwartssprache 1. Das Verb*. Düsseldorf 1973, S. 177-180 und S. 281-282; 岡本順治「AN-不変化詞動詞に見られる部分的遂行の含意」(ドイツ語の統語構造と意味構造のインターフェイスに関する通時論的・共時論的研究 平成8年度~平成10年度科学研究費補助金(基盤研究(B1)) 研究成果報告書) 1999, 19-25ページ。
- (3) 本論では、分離前綴り an- を伴う複合動詞のことを「an 動詞」とよぶ。
- (4) François, Jacques: *Aktionsart, Aspekt und Zeitkonstitution*. In: Schwarze, Christoph und Wunderlich, Dieter: *Handbuch der Lexikologie*. Königstein 1985, S. 229-249, hier S. 229.
- (5) Lewandowski, Theodor: *Linguistisches Wörterbuch*. 3 Bde. 6. Aufl. Heidelberg 1994, 1. Bd. S. 37.
- (6) Ebd., 2. Bd. S. 432.
- (7) Inchoativ の定義についても統一した見解がなく、さまざまな定義が提

唱されている。Storch, Günther: *Semantische Untersuchungen zu den inchoativen Verben im Deutschen*. Braunschweig 1978, S. 5-12参照。

- (8) Okamoto, Junji: *AN-Verb Constructions in German in view of Compositionality* (筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究報告書) 1998, pp. 56-57.
- (9) Storch: a. a. O., S. 96-104, S. 121-124 und S. 146-154.
- (10) Weisgerber: a. a. O., S. 133f.
- (11) 使用したテキストは以下の通り。出典は著者名とページ数, 行数で表す。

Böll, Heinrich: *Billard um halb zehn*. In: *Heinrich Böll Werke. Romane und Erzählungen 2*. hrsg. von Bernd Balzer. Köln 1977 (初版は1959年)

Grass, Günter: *Die Blechtrommel*. In: *Günter Grass Werkausgabe in zehn Bänden. Band 2*. hrsg. von Volker Neuhaus. Darmstadt 1987 (初版は1959年)

Ende, Michael: *Momo*. Stuttgart 1993 (初版は1973年)

Walser, Martin: *Ein fliehendes Pferd*. Frankfurt am Main 1978

Hein, Christoph: *Der fremde Freund*. Berlin 1982

Wolf, Christa: *Kassandra*. In: *Christa Wolf Werke 7*. München 2000 (初版は1983年)

Süskind, Patrick: *Das Parfum*. Zürich 1985

Ransmayr, Christoph: *Die letzte Welt*. Frankfurt am Main 1991 (初版は1988年)

Schlink, Bernhard: *Der Vorleser*. Zürich 1995

Maron, Monika: *Animal triste*. Frankfurt am Main 1996

Jenny, Zoë: *Das Blütenstaubzimmer*. Frankfurt am Main 1997

DER SPIEGEL: Das deutsche Nachrichten-Magazin. 1999 Nr. 37: 1999 Nr. 41: 1999 Nr. 45: 1999 Nr. 49: 1999 Nr. 50 (この5冊はSp.と略記して, その後に号数を示す。また, ページ数の後の記号は欄と行数を表し, l, m, r, o, uはそれぞれ左, 中, 右, 上, 下の欄を, その後の数字は行数を表す。)

- (12) 参考にした辞書は以下の通り。参考にする an 動詞は, 同様の記述が三冊以上の辞書に記載されているものに限る。よって本論は an 動詞の網羅的な研究ではない。

Wörterbuch der deutschen Gegenwartssprache. 6 Bde. hrsg. von Klappenbach, Ruth und Steinitz, Wolfgang. Berlin 1968 (Gegenwartと略記)

Brockhaus Wahrig. Deutsches Wörterbuch. 6 Bde. hrsg. von Wahrig, Gerhard. Stuttgart 1980 (Wahrig と略記)

DUDEN. Das große Wörterbuch der deutschen Sprache. 10 Bde. 3 Aufl. Mannheim 1999 (Duden と略記)

『独和大辞典』第2版：コンパクト版（小学館）2000（独と略記）

- (13) an-fahren は「開始」の意味の他にも、「衝突する」という「接触」の意味や「近付く」という「接近」の意味を示す用例をもつが、本論はそれぞれの an 動詞の「開始」の意味を示す文例のみを考察の対象とする。
- (14) an-laufen は Film「映画」以外にも様々な語を主語とし、「走り始める」「(機械が) 動き始める」「(事態が) 始まる」などの意味を表す。
- (15) an-drucken は、基礎動詞 drucken が他動詞であるのに対して、an 動詞は自動詞・他動詞両方の用法をもつ。しかし、本論は Inchoativ という意味論的な概念と関連して an 動詞を検討するため、このような統語論的な問題については必要以上には立ち入らない。
- (16) この他、an-schwingen「(鉄棒で) 体を振り始める」an-zählen「(ボクシングでダウンした選手の) カウントをとり始める」のように、基礎動詞が単独で用いられる場合と比べて an 動詞の意味が限定される例も存在する。また、an-bahnen は本来「(新しい道を) 開く」という意味を表すのだが、もっぱら比喩的に用いられる。更に an-lauten「(語が…の音で) 始まる」an-schießen「試射する」もこの分類に属すると考えられる。
- (17) an-rosten のような an 動詞は、岡本 (1999: a. a. O.) や Stiebels, Barbara: *Lexikalische Argumente und Adjunkte*. Berlin 1996, S. 78-82 において「部分的遂行」及び „Partialmarkierung“ を表す an 動詞として考察されている。本論では、これらの研究にならって「部分」の用語を用いる。ちなみに、「部分」の意味を示す an 動詞は過去分詞の形で、状態受動や付加語として用いられることが多い。
- (18) an-faulen は、造語論的には形容詞から派生した an 動詞であるが、faulen という基礎動詞も存在するので、この分類に属するものと考えられる。後述する an-trocknen や an-wärmen 等も同様である。
- (19) 辞書記述からは判然としないが、an-(be)zahlen「頭金を支払う」an-gären「発酵しかかる」an-grauen「白くなりかかる」もこの分類に属するものと考えられる。
- (20) an-pieken はどの辞書にも記載されておらず、前綴り an- が今なお生産的な前綴りであることを示す例と言えよう (Sp. 45 S. 136 m.12)。
- (21) これらの an 動詞の中には、基礎動詞そのものが Deminutiv 的な意味

を示すものも存在し、詳察の必要がある。

- (22) その他の例として、an-beißen「ひとくちかじる」an-brauchen「使い始める」an-schneiden「最初の一片を切り取る」等は、基礎動詞の表す行為が「反復」して行われることを前提とし、その行為の「一回目」を意味するan動詞であり、これらも本節の分類に属すると考えられる。an-paddeln, an-rudern, an-segeln, an-zelten等「シーズンの開始」を表すan動詞も、同様に解釈できよう。
- (23) この2語には、Strecke「道のり」やGebiet「地帯」などの語を補足語として、空間的に「開始」の位置を表現する用法もある。またanfängenには、前置詞mitに導かれる句や、zu不定詞句の表す内容の「開始」を表現する用法も存在する。
- (24) Storch: a. a. O., S. 153によると、„Ulla spielt/gibt an“に並行する表現は„Das Spiel beginnt, während Ulla spielt/gibt“である。
- (25) an-schmeißen, an-springen, an-werfenも「機器の始動」を表すan動詞であるが、基礎動詞の受け持つ意味役割は明瞭でない。
- (26) 類例にan-brennen, an-feuern, an-heizenが存在するが、これらは第一節で検討した分類に属するとも考えられる。
- (27) 通時論的にも「点火」を表すan動詞から、技術の進歩により「機器の始動」を表すan動詞が発達したと考えられ、両者の用法の連続的なつながりが感ぜられる。
- (28) 「機器の始動」を表すan-kurbeln, an-treibenや「点火」を表すanfachen, an-heizen等には、一般的に行為の「開始」を促すことを意味する用法もあり、そのつながりでan-spornenやan-stachelnなど「駆り立てる」という意味を示すan動詞が「開始」を意味するan動詞として分類されることもある。例えばKühnhold: a. a. O., S. 282を参照。
- (29) Taylor, John: *Linguistic Categorization*. 2.ed. Oxford University Press 1995, p. 108.
- (30) この他、本論の枠組で分類できないが主要なan動詞として、an-lassen「始まりの調子は…である」an-rucken「(車両が)ゴトンと動き出す」an-stauben「少しほこりがつく」an-stimmen「歌い始める」が挙げられる。